



厳しい寒さの中でも、元気いっぱいの子どもたち。でも、低温、低湿の冬は、風邪ウイルスが大好きな季節です。風邪を寄せ付けない丈夫な体作り、環境作りに気を配り、寒い冬を元気に乗り切りましょう。

寒い冬は様々な方法で『暖』をとりますね。暖房器具や温かい食べ物など……。ちょっと目を離した隙にお子さんが触ってしまいそうになり、ヒヤッとしたことはありませんか？万が一、熱傷を負ってしまった場合の対処方法はご存知ですか？

子どもに多い熱傷の原因

- 炊飯器やポット、電気ケトルの水蒸気を触る。
- 温風ヒーターの吹き出し口に手や足が触る。
- 卓上の熱い飲み物、味噌汁を触ったり、テーブルクロスを引っ張る。
- 台所のコンロで熱くなったグリルを触る。
- 消し忘れのたばこを触る。
- 湯たんぽやカイロなどに長時間触る。(低温やけど)



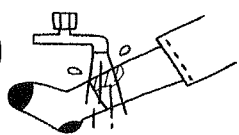
熱傷(やけど)の程度

程度	障害組織	外見	症状
I度	表皮層	皮膚の色が赤くなる	痛みとヒリヒリする感じ
II度	真皮層	皮膚は腫れぼたく赤くなり、水疱(水ぶくれ)になるところもある	真皮の浅い層での熱傷は強い痛みと焼けるような感じ。深い層での熱傷は痛みや皮膚の感じがわからなくなる
III度	皮下脂肪組織	皮膚は乾いて硬く、弾力性がなく、蒼白になり場所によっては焦げている	痛みや皮膚の感じがわからなくなる

応急手当

① 流水で冷やす

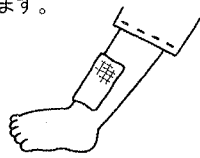
水道を出しっぱなしでとにかく冷やす！傷に直接流水を当てずに、清潔なガーゼやタオルを当て、痛みがなくなるまで冷やします。



衣類で覆われていても、そのまま服の上から流水で冷やす！

② 患部を保護する

水疱(水ぶくれ)ができて潰さないで、清潔なガーゼや布で覆いその上から冷やしながらか医療機関に連れて行きます。



早期にどれだけ冷やしたかがとても大事になってきます。

※低温やけどについて
低温やけどは見た目小さくても、皮膚の深くまでやけどが進行しています。清潔なガーゼや布で覆って医療機関を必ず受診してください。

子どもの安全！大人が守りましょう！

- ★子どもの手の届く所に危険な物を置くのは絶対にやめましょう！
- ★子どもたちは日々成長しています。「ここまでは届かないだろう」「こんなことはできないだろう」ではなく、「もしかしたら触るかもしれない」「届いてしまうかもしれない」と考え用心するようにしましょう。

子どものお肌も保湿が大事

子どもは、肌のバリア機能が未発達なので、乾燥するとそのバリア機能がどんどん失われる為、荒れていくのです。皮膚が極度に乾燥し、潤いがなくなることで外からの刺激を受けやすくなります。あかぎれやしもやけ防止の為にも手を洗ったら、しっかり水分を拭き取る事、お風呂上りには保湿クリームを塗るなど、日常的なケアを心がけましょう。

こんな時は救急車を！

- 広範囲にわたるやけど
- 体表面積10%以上のやけど
(子どもの場合、腕や足一本の面積がほぼ10%)



12月の健診のお知らせ

- ◇4か月児健診(受付 9:00~10:30)
毎週火曜日：3, 10, 17, 24日
 - ◇1歳6か月児健診(受付 12:50~14:00)
毎週水曜日：4, 11, 18, 25日
 - ◇3歳児健診(受付 12:50~14:00)
毎週木曜日：5, 12, 19, 26日
- 場所：保健所・保健センター
(中野町字中原「ほいっぷ」内)



問合せ先：☎39-9153 (こども保健課)

※対象者の方には、ご自宅へ健診日1か月前に健診票を郵送します。ご案内の日時に健診を受けて下さい。変更する場合は、必ず事前にご連絡下さい。